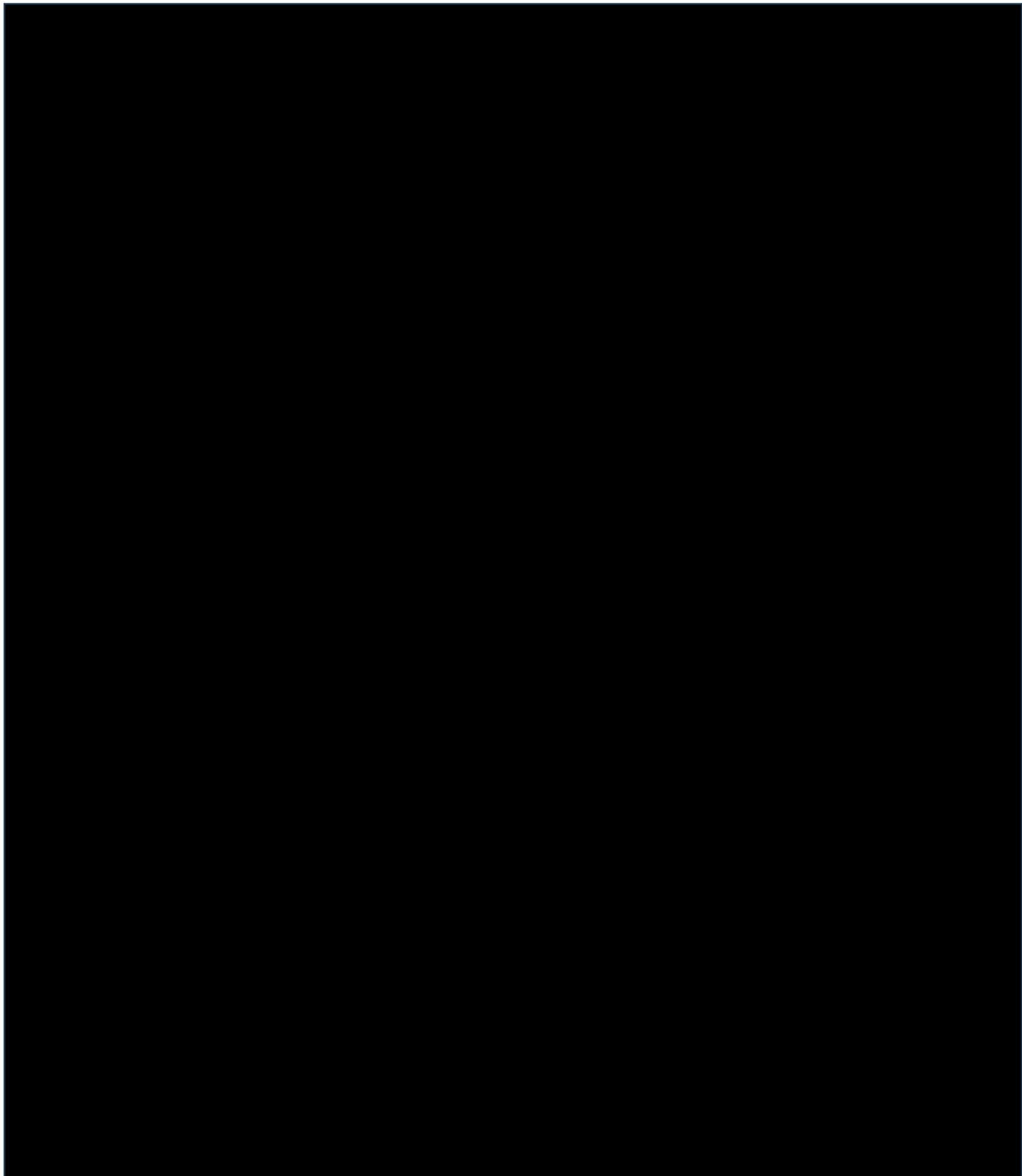


# 2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	日本語 (NO.1)

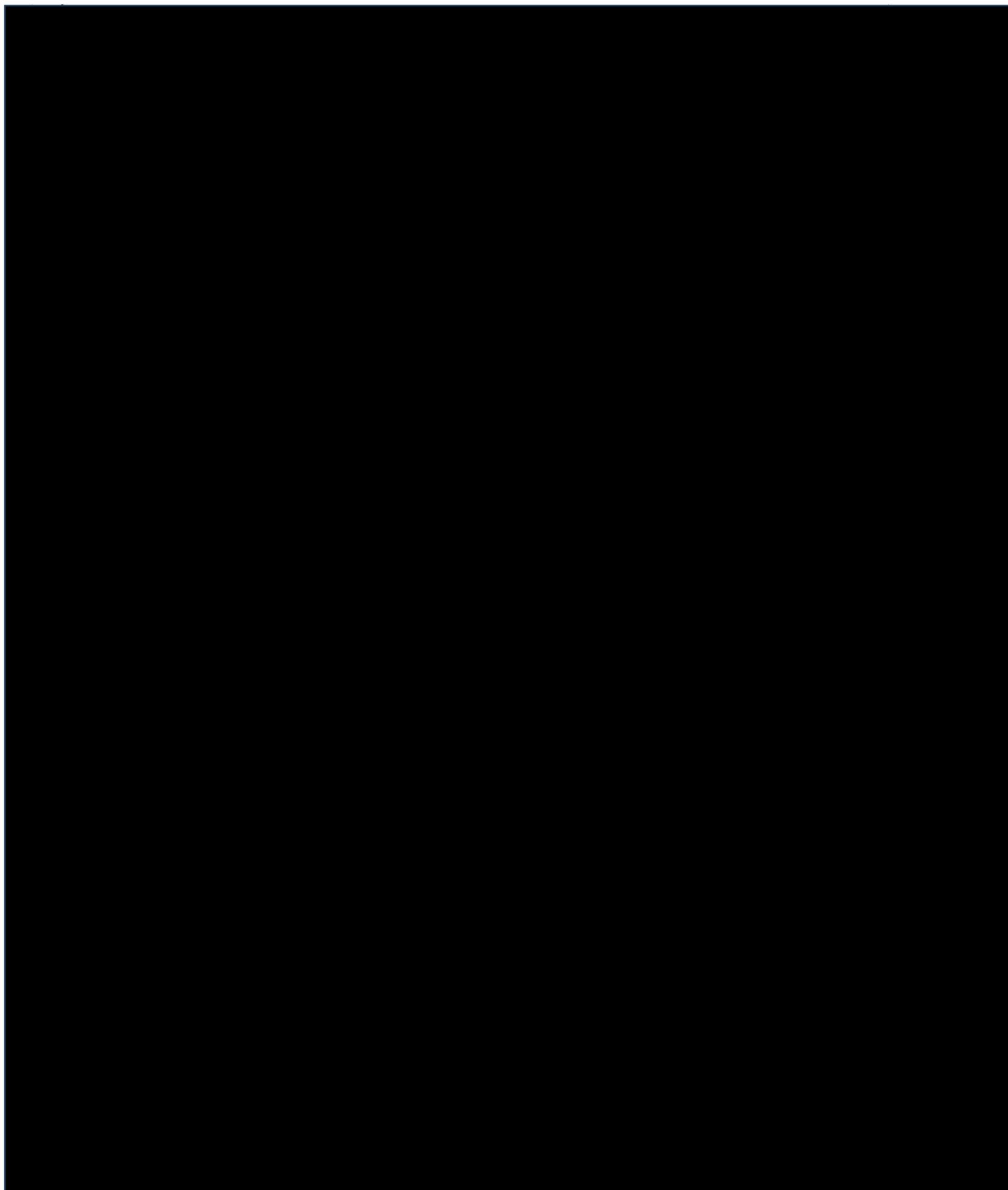
---



# 2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

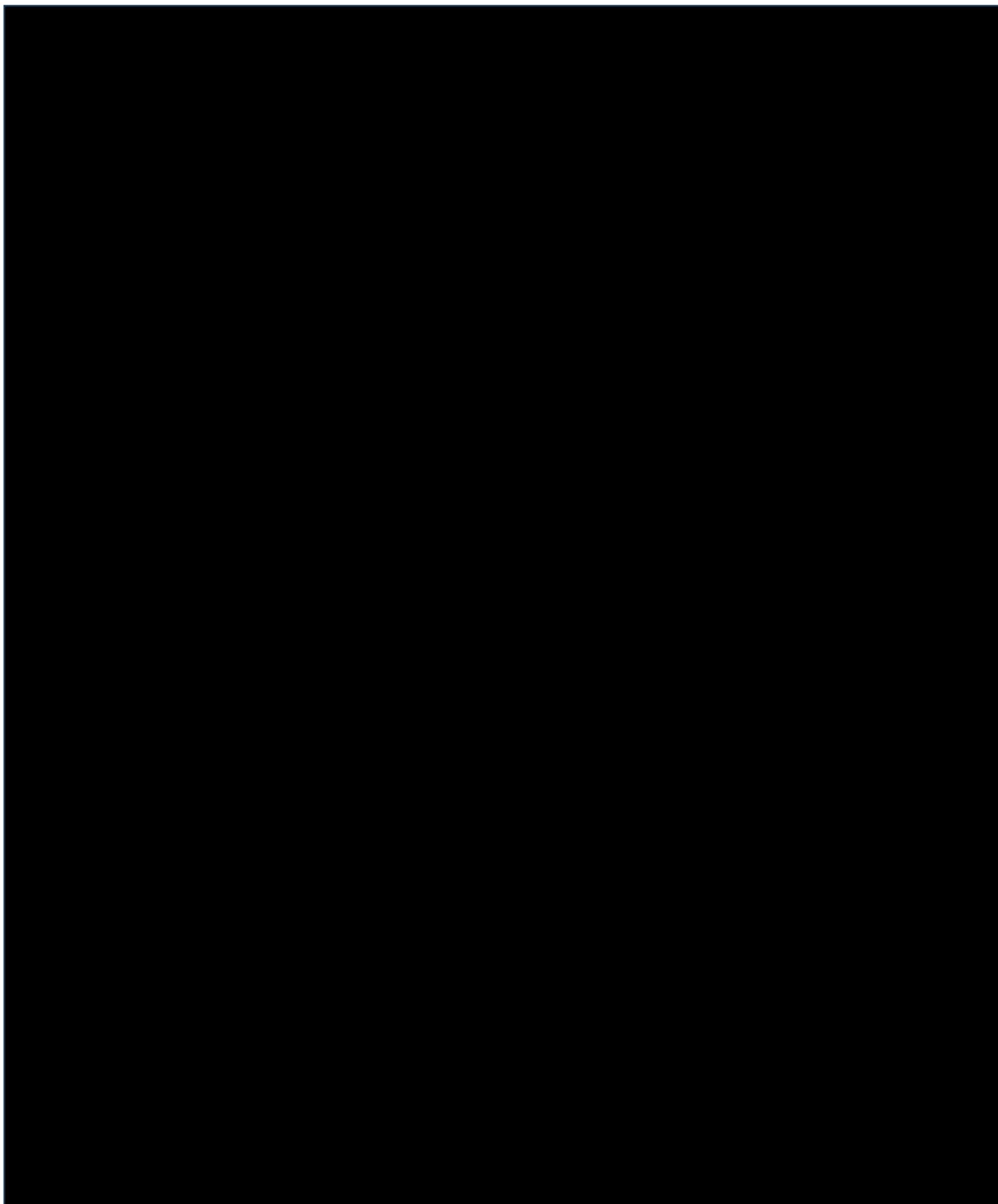
研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	日本語 (NO.2)

---



# 2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	日本語 (NO.3)



## 2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	日本語 (NO.4)

出典：谷井俊仁「一心一徳考——清朝における政治的正當性の論理——」『東洋史研究』  
63-4、2005年（※原文の旧字体は、新字体に改めている）

\*問題本文は著作権法上の理由から記載することができません。上記出展箇所をご確認ください。

問 この文章の著者が、マンジュグルンにおいてヌルハチの政治的正當性がどのように論  
理づけられていたと考えているのかを書きなさい。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

この文の著者は、満洲人に対するヌルハチの求心力の源泉が度重なる軍事的勝利や国家建設の成功にあったという先行研究の見解を前提としつつ、それだけでは彼の政治的正当性の論理は十分に説明できないと考える。以来の連続的な勝利や国制の整備は、ヌルハチの権威にとって不可欠であった。著者が注目するのは、ヌルハチが政治的正当性を持ちえた内面的な論理である。そして、そのその中心に置かれたのが、「正しい心 (tondo mujilen)」であったと主張する。

著者によれば、ヌルハチは自らを「正しい心の人」として示し、出自や血統ではなく心の正しさと徳によって人を登用すべきだと説いた。ヌルハチにとっては「正しい心の人」というのが、人間理解の中心概念となっており、「正しい心」の人こそが統治を担う資格をもつという人間理解が存在した。軍事的成功も、単なる武力ではなく、正しい心に基づく統率の結果として意味づけられていた。またヌルハチは、「正しい心」は法と密接に結びつけられると説いた。法を破ることは正しい心を欠くことを意味し、逆に正しい心をもつハンが制定した法は正当とされた。法は軍事や狩猟の成功を支える統制の技術でもあり、その周知徹底と記憶が強調された。

さらに著者は、自らの心の正しさ以外の、法を正当化する根拠として、ヌルハチが「均一 (neigen)」を重視していたとする。著者によれば、ヌルハチは、。役・課税を数量的に均一化することによって、公平で明朗な統治を実現しようとした。均一性は、公正さを可視化する仕組みであり、正しい心の政治を制度化する手段であった。

以上のように著者は、ヌルハチの政治的正当性は、軍事的勝利と国家建設という功績の基盤であるところの「正しい心」、そしてその心に基づく法、さらに法を正当化する根拠としての「均一」によって論理づけられており、ヌルハチは正しい心の人々が、法を守って均一に暮しているのが望ましい状態としてとらえられていた、と考えているといえる。

出題意図：

Purpose of Question：

本問題は、外国人留学生である受験者が、日本語で書かれた専門的な歴史学の論文を正確に読解し、その中心的主張を的確に把握できるかを確認することを目的とする。

特に、ヌルハチの政治的正当性が単なる軍事的成功ではなく、「正しい心」「法」「均一」といった概念の連関によって論理づけられていることを理解し、論文の議論構造を整理して説明できるかを問う。また、問いに即して内容を簡潔かつ論理的な日本語でまとめる記述能力も評価の対象とする。